



第1回公開授業研究会(中2総合) 「だれもが元気になるゆず王国北川村への挑戦」

今年は、村長さんの話を聞くことを通して、北川村のゆず産業の課題とその課題解決に向けた村の施策を知り、圃場整備事業のゆず園（北川モデル）やロボット、ICT を活用したスマート農業を見学したり、ゆず産業に関わる人々（企業・村・農家）へのインタビューをしたりしてきました。

本時では、ゆず産業の活性化に向けて、「効果的か」「実現可能か」という視点にそって、自分たちにできることを検討することをねらいとした活動を行いました。前時までに学級全体で絞った3つの案（マスコットキャラクター作成、ゆずを使用した日用品や食べ物の開発）について、2グループに分かれて意見を述べ合いました。その際、視点によって、議論したことをメモできるように思考ツール（マトリックス）を活用することで、出された意見を可視化できるようにして分かりやすくしていました。グループ協議では、理由も付けて話し合いが展開されていました。グループ同士で気になることを質問し合う姿も見られました。



前時の振り返りをしよう



生徒から出ていた3つの案を確認



商品開発は費用・時間が問題



ご当地キャラで子どもにもゆずをPR!



話し合ったことを発表【A】



話し合ったことを発表【B】



2つのグループの考えを合体させる



授業の振り返りをノートに書く

ゆず石けんはコロナでも需要がありそう

商品に絵を描いて載せる

開発商品に絵を載せる二重戦法!

単元名 だれもが元気になるゆず王国北川村への挑戦

めあて ゆず産業の活性化に向けて、自分たちにできることを「効果的か」「実現可能か」という視点にそって検討しよう。

【振り返りの視点】

- ・友だちと議論してみて
- ・自分の意見がどう変わったか
- ・今後どのように取り組んでいきたいか

A班

	効果的か?	実現可能か?
ゆず産業の活性化に向けて自分たちにできることは?	・ゆずを洗剤で洗う ・ゆずを乾燥させてお菓子にする	・ゆずを洗剤で洗う ・ゆずを乾燥させてお菓子にする
商品開発をする (ゆずを使った食べ物)	売れなから効果的ではない 幅広い世代にゆずを売ってもらうには効果的	時間がかかる コロナ禍で調理実習が難しい
商品開発をする (ゆずを使った日用品)	しよらがある ゆずのロスを減らせる(①)	コロナ禍でも売れることが出来る 原料がゆず・ワラ・ワラと紙糊
商品開発をする (ゆずを使ったキャラクター)	子どもにゆずを知ってもらえる 人目にもゆずが少くない	ゆずのデザインがまだ 少地域の人に受け入れられる

B班

	効果的か?	実現可能か?
ゆず産業の活性化に向けて自分たちにできることは?	・ゆずを洗剤で洗う ・ゆずを乾燥させてお菓子にする	・ゆずを洗剤で洗う ・ゆずを乾燥させてお菓子にする
商品開発をする (ゆずを使った食べ物)	流行らなければ効果はない 持続(①) ↑他の県まで売れれば 次の商品も考えないといいな 流行れば知名度UP!! 継続的に買ってもらえる	調理実習がコロナでできない 費用がかかる、時間がかかる 時間がかかれば完成できる 村にアイデアを出せばいいぞう
商品開発をする (ゆずを使った日用品)	商品開発が難しい 費用・時間 ↑費用 有名になれば注目してもらえ 商品などに知名度のせること外では	製造工程が難しい
商品開発をする (ゆずを使ったキャラクター)	マスコットにするのが難しい 今、マスコットキャラが流行っていない	絵が描くことは簡単 村にアイデアを出せばいいぞう 万人向けするものをつくれるか 時間外かかりそう

指導助言（松岡 指導主事より）



○（マトリックスを使ってグループ協議をしたが、座標軸ではどうかとの質問に対して）座標軸で表した時に子どもたちがその理由付けの可視化が難しい。思考ツールは思考を可視化し整理して子どもたちの考えを明確にしていく一つの手段。マトリックスの他にも方法があったと思う。

○地域の方々の思いというところに注目し、一つの根拠にして記憶や記録にとっているものを扱いながら、「効果的か」「実現可能か」考えることができていた。

△（前時までの振り返りから）子どもたちはやりたいことはあるけれど、何のためにそれをやるのかという考えはまだ弱い。

○本時ではある一定、地域の活性化に向けての方向性は決まっていた。さらに、切実感を持たせるようにする。

⇒【本当にやりたいと思わせるポイント】

①授業者がタイミング良く切り返して、価値付けをしていくこと

・切り返しは、簡単な言葉で問い続けていくことが必要である。そうすることで、本当に自分がやりたいことや解決したいことが明確になっていく。

○教師が子どもに任そうとチャレンジしていた。「いいところに気付いたね！」という価値付けをして、キーワードを可視化する（板書に残す）ことで、この視点を含めて考えることができる。

②思考の流れの予測と振り返りの見取り

・子どもたちが何をやりたいのか、何に向かっているのかをしっかりと見取りながら大きな最終的なゴールからずれていかないように、授業者が調整していく必要がある。

・地域が活性化している状態とは、どういう状態なのかということ子どもたちが、もっと具体化してもらっていくと活動していく意気込みや探究したい、学びたいという姿が変わっていく。

齋藤 調査官より

★振り返りノートに教師が価値付けしたり、方向性を示したりできていた

★本時の教師の役割

- ・「効果的か」「実現可能か」（本時の位置付け）視点にそった議論がさらっといきすぎた。
- ・学年団の教師の役割を明確にして指導することが大切

授業について

○先生の構え

- ・思考ツールの適材適所の活用場面。そして、整理する視点を適切に、かつ明確にもつこと。
- ・本時までの流れが明確だったので、子どもの興味・関心を軸にして授業を進めている。
- ・教師が子どもの思考の流れと最終ゴールを意識しながら教材研究されているのが素晴らしい。
- ・振り返りをさせる、教師が意味づけ・価値付けができています。

○子ども

- ・目が輝いていて、やらされ感ではなく学びたい・探究に向かっている姿が見られた。
- ・自分が親から聞いた話や事業所の方から聞いた話などから考え、根拠をもとに発言していた。
- ・マトリックスを使って、視点にそって整理・分析ができていました。
- ・あたたかい人間関係という土台があり、対話が生まれるということを改めて感じました。全体共有場面での説明の仕方も素晴らしかったです。
- ・自分たちが住む北川村のために一生懸命に考えている姿に感動しました。

協議の視点

活発に検討する手立てとして、視点の与え方（「効果的か」、「実現可能か」）や思考ツール（マトリックス）が適切であったか。

ふりかえりまとめ



1 授業や協議で学んだこと、今後に生かしたいこと

★本時の目標：ゆず産業の活性化に向けて、自分たちにできることを「効果的か」「実現可能か」という視点にそって検討しよう。

○自分たちにできることを「効果的か」「実現可能か」という視点にそって、生徒たちが思考ツールをもとに検討することができていた。

○ノートに授業1時間ごとの振り返りが書かれていました。また、授業の板書も印刷されて貼られていました。足跡を残す、学びを積み重ねる大切さを感じました。

○新しい視点「持続可能か」についても、今後協議できるといいと思います。

○グループで話し合いをしているときの教師の動きや、全体への問いかけが参考になった。

○児童の意見に共感・価値づけ（思考を深めるような問いかけや切り返し）

○時間配分（A・B班の意見交換でもっと話し合いの時間が確保できると良かった）

○生徒にしっかり振り返りをさせていて、それについて教師の価値付けができていたので、PDCAサイクルができています。

○総合の学習では、結果を求めるだけでなく、途中の取組に重点を置いて進めていくことが重要で、生徒が主体的に探究課題に向き合い、自分事として活動していくために、指導者はいかにやる気を持たせていくことが大切であると思いました。

○生徒が整理・分析したこと（学び）を可視化すること（思考ツール、学びの足跡、生徒のノート等）

研究協議にて授業者より

☆子どもたちから出た意見を価値付けしながら、それを可視化するために表を使ってキーワードを入れたら良かった。今後、活動がどうなっていくか分からないけど、子どもたちがやりたいことをしっかりと何のためにするのかを大事にしながらやっていきたい。

その他

参観者より

- ゆず産業の活性化に向けて自分たちにできることをマトリックスの視点にそって**「ゆずを使った日用品を開発することは、コロナ禍でも需要があり、村内のいろんな所に置いてもらうことができ、幅広い人に知ってもらうことができる」等の意見をそれぞれが出し、**検討することができていた。**
- 中学校は、**社会の情勢や取組にも触れ、視野も広がってきている**と思います。今後、地域の方や企業等、**関係機関の方と協働して自分たちが考えた案を実現して欲しい**と思います。生徒たちは、昨年度に比べて、**自分の考えを理由も含めて、分かりやすく伝えたり、質問し合ったりする力が高まってきている**と思います。**視点にそってさらに問いかけたり、議論し合わせたりすると、もっと意見が出たのではないかと**感じました。**学年団で役割分担も含めてベクトル合わせて取り組んでいくと、さらにダイナミックな取り組みができる**と思います。
- 総合的な学習の時間では**各教科における学びをもっと活かせるような授業展開をすることを考えた方がよい**のではないかという気がしている。そのために、事前の指導案検討の時に各教科担当から関連した学びについての発言があるべきだと思う。二学期の授業に向けて検討したい。
- 小学2年生の生活科、中学2年生の総合的な学習の時間の授業を拝聴しました。**小中9年間のつながりを垣間見ることができたとともに、地域の財産を活かした探究的な学びのサイクルが実践されている**と感じました。
- 昨年度までの研究の足跡が残されており、大変勉強になりました。**板書や授業風景を残し、みんなで共有することは有効**だと思った。
- 評価をすることまでは考えられていなかったので、**教科同様、三観点で子どもを見取っていく必要がある**と知った。
- 表現方法のみでつながるのではなく、内容まで踏み込んだ**他教科との深い連携ができれば…**と感じました。
- 生徒のみなさんも**とてもあたたかい雰囲気**があり、**学び合いができており感心することばかり**でした。
- 指導と評価の一体化についての教師自身の捉えがまだ曖昧**なので、**再確認**していきたい。

共通取組事項！

★生徒の活動や意見・考えを可視化すること

★生徒の発言を価値付ける



この二つが分かる構造的な板書

★授業者がタイミング良く切り返して、価値付けをしていくこと（切り返しは簡単な言葉で問い続けていく）

★思考の流れの予測と振り返りの見取り（生徒をしっかりと見取る）